

平成20年度 病害虫発生予察情報

発生予報第8号（8月）

平成20年8月4日
島根県

予報の概要

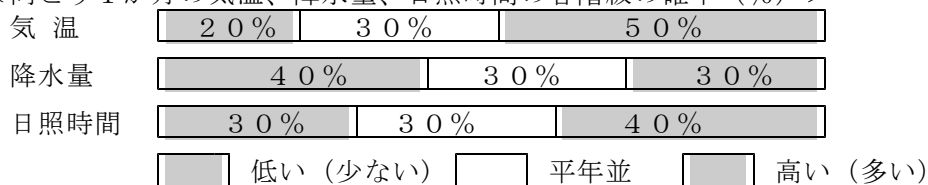
区分	農作物名	病害虫名	予想発生量
普通作物	イネ	穂いもち	やや少ない
		紋枯病	やや少ない
		白葉枯病	やや少ない
		ツマグロヨコバイ	平年並～やや多い
		セジロウンカ	やや少ない
		トビイロウンカ	やや少ない
		コブノメイガ	やや少ない
		斑点米カメムシ類	多い（※注意報）
		ハスモンヨトウ	やや少ない
		黒斑病	少ない
果樹	ダイズ	シンクイムシ類	やや多い
		ハダニ類	平年並
		カメムシ類	平年並
		うどんこ病	やや少ない
		カキミガ	平年並
	ナシ	カメムシ類	やや多い
		ハダニ類	平年並
		カメムシ類	平年並
		うどんこ病	やや少ない
		カキミガ	平年並
カキ	カメムシ類	やや多い	
	ハダニ類	平年並	
	カメムシ類	平年並	
	うどんこ病	やや少ない	
	カキミガ	平年並	

中国地方1か月予報（8月2日～9月1日・広島地方気象台8月1日発表）

<予想される向こう1か月の天候>

平年と同様に晴れの日が多い見込みです。向こう1か月の気温は、高い確率50%です。

<向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率（%）>



1) イネ

(1) 穂いもち

予報内容

発生地方

全域

発生量

やや少ない

予報の根拠

① 7月第5半旬に行った定点調査（70圃場）における穂いもちの発生量は発生圃場率15.7%（平年46.7%）、発病株率6.6%（平年29.4%）と、平年に比べてやや少ない。

また、上記圃場を含めた県内360圃場における穂いもちの発生状況は、一部地域では発病程度の高い圃場が散見されるものの、全般の発生量は穂いもちの発生がやや少なかった昨年とほぼ同程度である（次頁表参照）。

② 7月第5半旬以降、BLASTAMによる感染好適日は出現していない。

③ 8月の気象は、本病の発生を助長する要因とはならない。

表 近年の葉いもち発生状況（7月下旬調査）と穂いもち発生量

年次	場所	調査圃場数	葉いもち発生圃場率	葉いもち発病株率	葉いもち発病度	穂いもち概評	穂いもち被害面積率
平成20年	県東部	230	12.2 %	3.3 %	0.8		
	県西部	130	21.5	8.4	2.2		
	県全体	360	15.6	5.2	1.4		
平成19年	県全体	360	16.4	5.2	1.3	やや少	1.7 %
平成18年	県全体	360	6.4	1.7	0.5	少	0.2
平成17年	県全体	360	3.3	0.9	0.2	少	0.1
平成16年	県全体	360	70.0	46.5	13.5	やや多	10.9
平成15年	県全体	355	49.3	23.5	6.8	多	36.0

(2) 紋枯病

予報内容

発生地方 全域

発生量 やや少ない

予報の根拠

① 7月25日下旬の定点調査における発生圃場率は22.8%（平成15年44.6%）、発病株率は2.5%（平成15年8.6%）で、全般の発生量は平成15年に比べてやや少ない。

② 8月の気象は本病の発生を特に助長する要因とはならない。

(3) 白葉枯病

予報内容

発生地方 常習発生地

発生量 やや少ない

予報の根拠

① 全般の発生量は平成15年に比べてやや少ない。

② 5月以降の積算降水量は平成15年に比べてやや少ない。

③ 8月の気象は本病の発生を助長する要因とはならない。

(4) ツマグロヨコバイ

予報内容

発生地方 県下全域

発生量 平成15年並～やや多い

予報の根拠

① 7月下旬の巡回調査では、捕獲数は16.2頭（平成15年28.9頭/50株）、発生圃場率は68.4%（平成15年72.5%）で発生量は平成15年並みである。

② 予察灯での誘殺数は平成15年並みである。

③ 8月の気象は本種の発生に助長的である。

(5) セジロウンカ

予報内容

発生地方 県下全域

発生量 やや少ない

予報の根拠

① 予察灯への初飛来は、出雲市で6月18～19日に認められた。7月下旬までの誘殺数は平成15年に比べて少ない。

② 7月下旬の巡回調査では、成虫が14.8頭（平成15年64.2頭/50株）、圃場率は68.4%（平成15年80.9%）で発生量は平成15年に比べてやや少ない。

③ 8月の気象は本種の発生を特に助長する要因とはならない。

(6) トビイロウンカ

予報内容

発生地方 県下全域

発生量 やや少ない

予報の根拠

① 予察灯、粘着誘殺灯への飛来は、7月下旬までに認められない。

② 7月下旬の巡回調査では発生を認めていない。

(7) コブノメイガ

予報内容
発生地方 県下全域
発生量 やや少ない

予報の根拠

- ① 予察灯、粘着誘殺灯への飛来は、7月下旬までに認められない。
- ② 7月下旬の巡回調査では被害株率0.2%（平成3.9%）、発生圃場率5.3%（同30.5%）で発生量は平年に比べてやや少ない。
- ③ 8月の気象は本種の発生を特に助長する要因とはならない。

(8) 斑点米カメムシ類

※ 斑点米カメムシ注意報(7月30日) 発令中

予報内容
発生地方 県下全域
発生量 多い

予報の根拠

- ① 7月23～28日に出穂している圃場ですくい取り調査を行ったところ、発生圃場率は87.0%（平成：70.5%）、平均頭数は9.0頭/20回振り（平成：7.0頭）で平年に比べてやや多い。特にアカスジカスミカメの生息密度が平年に比べて高い。
- ② 予察灯でのアカスジカスミカメの誘引数は285頭（7月第5半旬まで累積、平成97.8頭、昨年67頭）で平年に比べて多い。
- ③ 8月の気象は本種の発生に助長的である。

2) ダイズ

(1) ハスモンヨトウ

予報内容
発生地方 全域
発生量 やや少ない

予報の根拠

- ① フェロモントラップによるハスモンヨトウ雄成虫の誘殺累積数は出雲市で平成比8.8%、益田市で22.4%と少ない。
- ② 7月下旬のダイズ圃場調査では発生を確認していない。
- ③ 8月の気象は本種の発生に助長的である。

B. 果樹

1) ナシ

(1) 黒斑病

予報内容
発生地方 ナシ（二十世紀）栽培地帯
発生量 少ない

予報の根拠

- ① 7月28日の巡回調査では、発病葉率は7.3%（平成17.0%）であり、平年と比べて少ない。
- ② 8月の気象は、本病の発生を特に助長する要因とはならない。

(2) シンクイムシ類

予報内容
発生地方 ナシ栽培地帯
発生時期 やや遅い
発生量 やや多い

予報の根拠

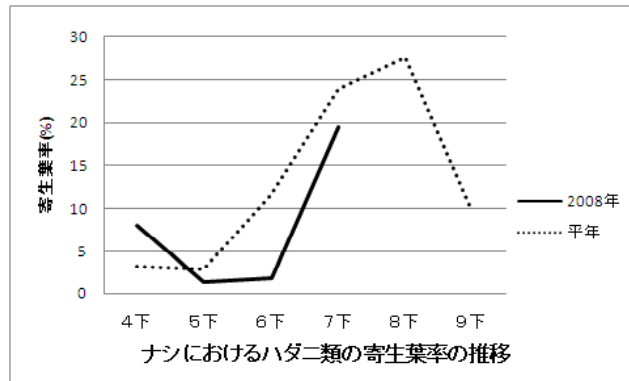
- ① 予察圃場（安来市・出雲市）のフェロモントラップでのナシヒメシンクイ雄成虫の誘殺盛期はやや遅く、誘殺数はやや多い。
- ② 8月の気象は発生を特に抑制する要因とはならない。

(3) ハダニ類

予報内容
発生地方 ナシ栽培地帯
発生量 平成並

予報の根拠

- ① 7月下旬の巡回調査では、寄生葉率は19.5%（平成値24.2%）と平成並み、寄生虫数も60.0頭/50葉（平成78.6頭/50葉）と平成並みである。
- ② 8月の気象は発生を特に助長する要因とはならない。



(4) カメムシ類

予報内容

発生地方 ナシ栽培地帯

発生量 平年並

予報の根拠

① 予察圃場（出雲市）の7月までの予察灯でのカメムシ類の誘殺数は1,026頭（平年1,097.7頭）と平年並みである。

② 8月の気象はカメムシ類の発生にやや助長的である。

2) カキ

(1) うどんこ病

予報内容

発生地方 カキ栽培地帯

発生量 やや少ない

予報の根拠

① 7月31日の巡回調査では、発病葉率は1.3%（平年8.6%）であり、平年と比べてやや少ない。

② 8月の気象は、本病の発生を特に助長する要因とはならない。

(2) カキミガ（第2世代）

予報内容

発生地方 カキ栽培地帯

発生量 平年並

予報の根拠

① 第1世代幼虫による芽および果実の被害は平年並みであった。

② 8月の気象は発生を特に助長する要因とはならない。

(3) カメムシ類

予報内容

発生地方 カキ栽培地帯

発生量 やや多い

予報の根拠

① 予察圃場（出雲市）の7月までの予察灯でのカメムシ類の誘殺数は平年並みである。

② 7月下旬の巡回調査ではカメムシの被害果を確認していない。

③ 8月の気象はカメムシ類の発生にやや助長的である。

島根県病害虫防除所

（島根県農業技術センター 資源環境研究部 病虫グループ）

〒693-0035 出雲市芦渡町2440

TEL 0853-22-6772

FAX 0853-24-3342

ホームページ <http://www.jpnp.ne.jp/shimane/>